

暑い 通りにして 危険 私たちの対策とは。

酷暑日元年 新聞

40度以上!?

酷暑日と命名

二〇二六年四月十七日、気象庁が最高気温四十度以上の日を指す新しい用語として、「酷暑日」を正式に制定・発表しました。酷暑日とは、命への危険な暑さへの警戒を促すために新設されました。

今までの区分
夏日 (25℃以上)
真夏日 (30℃以上)
猛暑日 (35℃以上)
酷暑日 (40℃以上)

猛暑日や真夏日でも、十分熱中症のリスクは高まります。体温の上昇は、人間の体温を上回る酷暑日は、生命に危険を及ぼす環境といえ、熱中症になる危険性がぐんと上がります。気温が四十度以上になると、人間はどうなるのでしょうか。体温調節が破綻する。大量の汗による重度の脱水。意識障害やけいれん。最悪の場合は命を落とす事もある。そんな気温の中、生き残るため



遊園地で 日傘のレンタル!



動物園では 緑のカーテン ミストウォール



公共施設でも COOL SHARE



駅でも ミストが!



に、どんな対策をしているのか、また、私たちのような対策が、できるのか、調べてみました。

発行者

豊橋市立二川小学校六年
ふりがな うらべかほ

浦部果歩

熱中症予防のために

。エアコン等をこまめに調節
。遮光カーテンなどの利用
。外出時には日傘や帽子を使う
。日陰を歩く、こまめな休憩
。通気性のよい衣服を着用
。保冷剤などで体を冷やす
。こまめに水分、塩分の補給

編集後記

昨年より5℃変わるだけで、人は命を落とすという可能性が上がるという分がかりました。酷暑が今年で来たのも、自分とおどろきでした。そして、自分です。見つけるのが楽しかった。皆さんも、頭痛などの症状出たらOS-1をどうぞ! 熱中症には気を付けて!



脱水症だと感じるようです。